

プロジェクト版

思いやり

佐藤愛子

どういう人に魅力を感じる
かと聞かれると、私はよく「す
べての人に思いやりのある人」
と答える。

思いやりのある人は決して少
くないが、その思いやりが自分
の家族に対してだけであつた
り、あるいは友人仲間に対して
だけであつたりするのでは落
第である。

自分にとって何の関りもな
い人、損害利得のない人にも思
いやりを持つことのできる人、
そういう人こそ私は尊敬する。

しかし、世の中というものはむ
ずかしいもので、あらゆる場合
にあらゆる人に思いやりを持
って対していると、身が持たぬ
ということもまた事実なので
ある。

ある日、私の家に一人の少女
がやって来た。広島の前爆で父
は死に母は数年後に原爆症に
なつて八年間病院にいて、十日
前についに死んだといふので
ある。

彼女は一人娘であつたから母に死なれると身よりというものが全くなくなつてしまつた。高校一年に在学しているが、母の死によつて学校を続ける金も住居もなくなつた。

彼女は母の発病と同時に住居を処分して母の入院先の病院の、母のベッドの下で寝起きをして学校に通っていた。母の死によって彼女は病院から出なければならなくなった。

彼女は私がある少女雑誌で
身の上相談をしているのを読
んで広島から出て来た。何でも
しますからどうか、仕事を捜し
て下さい、というのである。そ
の風体はまるきり田舎からの
ポツと出の熊の子が洋服を着
てヨチヨチと出て来たような
不格好さである。

言葉も方言まる出しのたどたどしさ。渋谷の親戚の家へ行つてみたが、その親戚は二年前にどこかへ行つていなくなつていたという。

私はとりあえず二、三日私の家におくことにした。何よりも私には彼女のその熊の子のような不器量さが胸に迫ったのだ。この器量、この言葉つきで東京で一人立ちするにはさぞ並々ならぬ苦勞が待っているにちがいない。私あたりが力になつてやらなければ、彼女は必ず転落して行くだろう。

彼女の不幸は彼女の責任ではない。何の責任もないのに一人の少女が不幸になつて行くということに対して、少なくとも彼女よりは力を持っているおとながそ知らぬ顔をしていてよいであろうか。私はそんなことを家の者にいつたりした。

その三日後、彼女はやはり広島に帰るといい出した。広島で息子に戦死されて一人ぼっちのおばあさんが、身のまわりの世話をしてくれる女の子を捜している、世話をしてくれれば高校を卒業させてあげるといういい話が高校の先生から来たというのだ。

私は喜んでそれに賛成した。そうして広島に帰るといふ彼女に弁当代として若干のお金を持たせてやったのである。

ところがその翌日、私は我が家の預金通帳から有り金が残らず引き出されていることを発見した。金額は三十万余りだが、貧乏ぐらしの中にあつた我が家としては全財産である。

「おかつぱの、色のまっくろ
な、おずおずした感じの女の子
が、引き出しに来ました」
と銀行の受付嬢はいった。

この話を人にすると、人はみな腹を抱えて笑う。ふだんはえらそうな口をきいているが、あんたという人は案外、ぬけておるな、と大多数の人がいった。あなたは苦勞してきたのに、いつまでもその苦勞が身につかぬへんな人だと。

思いやりというものにも、やはり限度というものがあるの
であろるか？ 私が四十七歳の
今日になってもまだわからぬ
のはそのことだ。

ウソとほんとうを見ぬく目と
いうものを確立した上ではじ
めて「思いやり」というものが
生きるというのであるだろうか？
しかしいったい何人（なんびと）
に、他人の真実というものがわ
かるであろうか？

これはくさい、と簡単に断定すれば、自分の身を守ることは容易にできる。しかし、その断定がもしまちがっていたとき、もし、それがウソでなかったとき、もし彼女がほんとうに迷っていたとき、その断定のあらうぽさによって彼女がより不幸に落ちたときはどうなるのか？

そういうことを考える人間
は、この世の中では「お人よし」
ということになってしまおう。そ
うして年がら年中、損ばかりし
ていることになる。私が弁当代
までやったというくだりで、人
はいっそう呆れ、笑いこける。

お人よしということと、思いやり
りということとは、紙一重の差で
となり合っているのだ。

多分自分の損得にかかわらぬ範囲で思いやりを持つことのできる人が利口な人間なのであろう。汗をかいている郵便配達に一杯の麦茶をふるまうなどといった思いやりは確かに世の中をなごやかに美しくするであらう。

だが思いやりとはその程度
に止（とど）めておかなければ
ならないものだろうか。

苦しんでいる人間の苦しみを思いやるとき、その苦しみがウソかほんとうかをまず疑い考えねばならぬとしたら、思いやりとは簡単なようでほんとうにむずかしいものだ。

（おわり）

